



NWS通信

Nurse(看護)・Wellbing(福祉)・Special(専門)

第 71 号

平成25年8月30日

発行所

駒沢看護保育福祉専門学校

岩見沢市9条西3丁目 〒068-0029

TEL (0126) 25-0300番

印刷所 K&K 組合印刷

生きるとは、理屈じゃない。

死を深く見つめて



学校法人駒沢岩見沢学園 理事長
駒沢看護保育福祉専門学校 学校長

加勢道男

私達一人で生きているとは、

して、私達のために、「ご縁の

誰しも考えていませんが、「孤
独・孤立」「一人ぼっち」と言

深さ」を大切に、「活かされて
生きている」立場に気づき、も

う方がいる。身の周りをしつ
かり観察してみると、人間関係

のを見て、考えて、行動するこ
とを説かれています。お釈迦

のみだけでなく、衣・食・住の
すべての生活要件が複雑に絡

さまは、王子の時に「人間は、
なぜ生まれ、病気になる、死を

み合い、いろいろな形で惜しみ
なく積極的に支援協力し合う

迎えなければならぬのだろ
う」と疑問をいつも抱えていた

ことで、生き続けています。お

という。

釈迦さまは「この世に存在する
ものは、すべて一瞬も留まるこ

「人間はどうして死ぬか」「生
命はどうして保たれるか」を考

となく変化（＝無常）しつつ、
お互いに助け合って（＝無我）

えると、「健康」の意義が分か
ります。「死」について思いつ

いる「現実を正しく見ることに
よって「心の安らぎの世界（＝

くことは「呼吸が止まる・眠ら
れない・食べない」ことです。

涅槃」に到達されました。そ

私達は、産声を上げた瞬間から

「死」がいつも側に寄り添って

いて、理屈を抜き「死」を生活

意識の同伴者とし、さまざまな

ことを考えてきました。人々

は、「死」を生命の終わりとい

う現象の神秘に「畏れ敬う」思

いを持つて向き合ってきました

た。私達は、死そのものを前

もって体験的に知ることはで

きません。しかし、死を身近な

問題として捉えて、生と死の意

味を深く考えることは、自分の

「生」の意義を確認する大事な

課題です。「死」を見つめるこ

とこそ「生き方」を学ぶことに

なります。

お釈迦さまの弟子に阿難さ

まがいられます。ある時、阿難

さまが修行されていると、焰を

口にした餓鬼が姿を現し「阿難

よ、お前の生命はあと3日間で

終わり、餓鬼世界の苦悩に遭遇

するだろう」と予言しました。

阿難さまは「長寿を保ち、餓鬼

道を免れる方法を教えてくれ

ませんか」と餓鬼に聞きました。

すると、「阿難よ、私は慈悲の

心を持たず、布施もせず、欲望

のおもむくままに生きてきた

ため、餓鬼道の苦しみを受けて

いる」「阿難よ、慈悲の心があ

るならば、「我利我欲」自分さ

え良ければ他人はどうなっ

ても良いという心を慎み、飲食な

どの布施の功德を積み、感謝の

心を捧げることです」と言つて

姿を消した。今、「余名〇〇日

である」という問いかけがなさ

れたらどうするでしょうか。

殆どの人々は「あれがしたい。

これがしたい」と、その残され

た短い時間をどのように過ご

すか考えます。そして、人生最

後の時間を使い、自分の「生」の

意義を確認するようになるの

ではないでしょうか。

保 育 科

幼稚園教育実習を終えて

保育専修科2期生 小西 瑞希

私は、6月10日から4週間、三笠藤幼稚園にて教育実習を行いました。4週間という実習期間を通して、より深く子どもたちとの関わりが出来ました。この2年間で学んできた事を実践していく中で、保育者としての責任の重大さを強く感じ、保育に関する知識の必要性や技術の更なる向上を目指すことの大切さを実感しました。

実習終了間際に全園児57名の前で、ベープサートを行い、子どもたちと一緒に歌いながら、りんごを拾い、ムシヤムシヤと食べる真似をしたり、「かえるがとんだ」で



は、かえるを想像し、跳ぶ真似をしたりしました。子どもたち1人

ひとりが自分のイメージを動きや言葉で表現するのを見て、共に楽しんで活動することが出来ました。しかし、活動を展開していく中で、子どもたちが楽しさのあまり、動きまわったり、ざわざわしてしまい、次に進もうとどんなに大きな声を出しても57名の子どもたちには届きませんでした。

子どもたちが騒いでいる時にあって、小さな声で話しをしたり、オーバーリアクションをすることで視線を引き付ける事が出来ると先生からアドバイスしていただき大変勉強になりました。

子どもが興味を持ち、楽しく活動が出来よう魅力ある人間になること、保育技術を身に付けていくことが今後の課題であると感じました。そのため、活動をよりスムーズに展開出来るよう、更に保育知識の修得と技術の向上を目指し、残りの学校生活を充実したものにしたいと思いました。そして、夢と希望に満ちた、保育者として成長していきたいと思います。



専修科に進学して

保育専修科2期生 野口 遥香

専修科に進学して3ヶ月が過ぎました。この3ヶ月間では、研修旅行や幼稚園での教育実習等、楽しかった事や辛かった思い出がたくさん出来ました。

研修旅行では近畿大学九州短期大学で、2日間スクーリング授業

を受けました。

慣れない環境で、他の学校の学生もたくさんいる中で、どのような授業をするのか、不安や緊張もありましたが、皆一生懸命頑張り、多くのことを学ぶ事が出来ました。宿泊した永平寺では、雲水さん達の生活に驚きながらも、一日だけでしたが、その生活を体験する中で、当たり前前の事にこそ感謝していかなければならないと

思いました。そして、今自分に出来る事、やるべき事を精一杯頑張る事が大切であり、重要だという幼稚園実習をひかえていた私達にとってとても心に残るお話も聞かせて頂きました。

四週間の幼稚園実習では、子ども達とたくさん関わる中で、様々な事を経験し、そして学ぶ事が出

来ました。

研修旅行、幼稚園実習と終え、いよいよ私達三十四期生も、就職活動へ今、一人ひとりが行動しなくてはいけない時期となりました。介護や福祉、保育等、私達には様々な選択肢があり、自分はこの道に進もうか、進めば良いのか悩んでいる人も多いと思います。就職には家族の人達の理解も必要ではありますが、最終的には自分の意志が大切だと思います。そのため、学生でいられる時間は後半ぐらいですが、限られた時間の中でたくさん悩み、そして、私を含めクラスの皆には、後悔しない道に進んで欲しいと思います。



看護第二科

臨地実習での学び

17期生 二学年 橋本 奈々

私たちは、4月の第2週目より半年間と長い期間を要する各論実習に入り、各グループに分かれて取り組んできました。

実習開始時は、毎日実習記録に追われ眠れない日々が続き、実習自体が終わらないのではないかと不安になり、クラスメイトやグループメンバーに相談したこともありましたが、そんな中である友人から「始まれば終わる」と言われ、とても気持ちが楽になりました。



あらためて実習は一人ではなく、クラスメイトやグループメンバーと知識を出し合いながら助け合い、精神的な面でも支え合うことが必要なのだと感ずることができました。

看護過程については、1年次に個人やグループワークで学んできましたが、何日も時間をかけて学んでいたの看護過程を実習場所の特徴に合わせて1日で行わなければならないため、無理なのではないかと考えていました。しかし、実際に実習に入ると指導を受けながらも完成させることができました。学校で学び始めたころに比べ、指導者や教務の指導により自分が気付かないうちに少しずつ行う力がついていたのではないかと感ずることができました。

夏休み後には、3クールの実習があり気の抜けない日々が続きますが、クラスメイトと助け合いながら取り組み、受け入れてくださる患者さんに感謝しながら、看護師としての知識・技術・態度を身につけて2月に行われる国家試験に向けて学びを深めていきたいと思

います。

学校生活を通して

17期生 二学年 外山 洋樹

入学してから早1年以上が過ぎ、今は臨地実習の真つ最中です。実



習では記録物や提出物に追われ眠れない日々を過ごすこともありました。患者様との関わりや援助でもどのように行えば患者様に少しでも安楽と感ずてもらえるか悩むこともありました。その中でグ

ループメンバーやクラスメイトと支えあい、なんとか実習を頑張ることができています。

同じ疾患でも患者様によって必要な看護は違い、個別性のある援助の必要性を感じながら日々取り組んでいます。また、患者様によつては抱えている疾患も多いため、全体像として捉える難しさを感じます。そして日々悩みながらも先生や指導者さんの助言から多くの学びを得ることができていると感ずます。

よりよい看護を提供するためには患者様の立場に立ち、安全・安楽・個別性を考えた関わりや援助が必要であると思ひます。そして実習を通して患者様と関わることで自分の理想とする看護師像を確立していくことができると思ひます。

看護第2科は私たち17期生が最後の学生となり閉科します。私たちのクラスは年齢も生活環境も様々ですが、皆が出会えたことは何かの縁であると思ひます。この出会いを大切に、協力し合いながらともに国家試験合格という目標に向かい残りの実習、国家試験への勉強に取り組んでいきたいと思ひます。

看護第一科

期待を胸に

～新しい仲間と共に～

5期生 一学年A組 吉田 楓

私は、同じ夢に向かってお互いを支え合えるような、そんな仲間と出会い、一人の人間として、もっと成長していきたいという思いを抱き入学してきました。二ヶ月が経った今、私達三十四人は少しずつ、看護学生として成長しています。

学内実習やテストが始まり、最



近では看護師になるという意識が高まってきました。授業では、高校とは全く違った内容で、自ら学びたいという思いが強く、看護師を目指している私達にとって、重要となる知識や技術ばかりです。入学してすぐに先輩との交流を深める為の新生歓迎会や、地域貢献としてゴミ拾いを行った看護の日、そして六月には芸術鑑賞で「美女と野獣」を見学しました。勉強だけではなく、様々な行事に参加する事でクラスの仲も深まってきました。

これから私は看護学生
5期生 一学年B組 水谷 梓
冬の寒さが抜けないまま迎えた入学式から三ヶ月

が経ちました。講義やプレテスト・学内実習を経験し、看護を学ぶということが少しずつ見えてきました。特に学内実習では、講義やデモンストラーションにより理解できたと思っていた事が、実施



私の毎日の目標は、効率の良い時間の使い方をし、忙しい毎日を乗り切る事です。これから看護師を目指している私達は、患者さんが常に安全で安楽な生活が送れるよう、出来る限りの援助を行っていかねばなりません。その為に私達は今、効率の良い時間の使い方をし、知識や技術を身に付けていきたいと思っています。

してみると上手くできずにいました。知識や技術だけでなく患者さんとのコミュニケーションを基盤

に關わっていく事の大切さや、実践を通して学ぶという看護の奥深さを感じることができました。まだ三ヶ月という短い期間でありながらも、学び得たものはとても濃いものです。これから看護師を目指す「看護学生」としての三年



間、限りある時間だと心して看護師国家試験合格というひとつの目標に向かっていきたいです。その中で、同じ目標を持った仲間同士、支え合い、高め合いながら過ごしていきたいと思っています。

2年生の目標

4期生 一学年 川尻紅瑠美

2年生になって、新たな教科書で、内容も一段と難しくなりました。新しい授業が始まり終了するとテストがあることのくり返りで、内容もより深いため、それぞれを



理解していくのが大変です。

2年生になり、一番理解を深めたのは、解剖学です。解剖生理学実践では、それぞれのグループで、分野ごとに別れ、学びを深め、発表することで、疾患を理解するためには、人間の構造を理解することが重要であると学びました。そして、その学びの大変さと、大切さを実感しました。また、札幌医科大学の標本館へ見学に行き、初めて人間の臓器を見たり、触れたりすることで、学校では体験することができない貴重な体験ができました。

学内実習では、より高度な吸引や酸素吸入などを行い、臨床では欠かせない技術を学ぶことができました。

研修旅行や遠足を通して、クラ



スメイトとの絆を深め気分転換を図り、これからの勉強や実習をみんなで励まし合い頑張っていきたいと思っています。

夏休み後、9月から3クルルの成人看護学実習が始まります。ここでの一番の学びは、看護過程をしっかりと学ぶことです。昨年よりさらに大変になりますが、今まで学んできた知識や技術を活かし、クラス全員で協力し合い、乗り越えられるよう頑張りたいと思います。

卒業に向け力を合わせて

3期生3学年 三浦真希子

私達3年生36名は、4月から約半年間、領域別臨地実習に取り組んでいます。小児・在宅など初めて経験する実習で不安や迷いを抱

えながらもグループメンバーと協力しながら実習しています。病院実習とは違った経験ができ、様々な年齢や健康レベルにある対象者の看護について学びを深めています。

1・2年生で学んだ知識や経験を生かし、日々の観察やコミュニケーションなどを通して対象者の全体像を捉え看護する難しさ大切さを実感し、実習に取り組んでいます。対象者の意思や希望を尊重しながら家族を含めた看護介入の重要性も感じています。

私達のクラスでは、実習中交換ノートを活用し情報共有をしています。ノートには励ましの言葉、実習の情報や国家試験対策について記載しております。なかなかクラスメイトに会うことは出来ませんが、それぞれの実習場所頑張っていることを感じることが出来ます。実習と並行して国家試験



の勉強や次の実習の事前学習に取り組んでいます。

約半年間実習が続きますが充実した環境で実習に取り組むことが出来ているのは教員をはじめ、各実習先の指導者、スタッフ、対象者のおかげです。支えて下さる方たちに感謝の気持ちを忘れず、実習に取り組めます。来年の2月には国家試験を控えており、全員が合格出来るように支えあつて頑張っていきたいと思っています。

学友会活動紹介

学友会活動を機会に

4期生2学年 早川 幹宏

私たち学友会は学生間の親睦を深めるために、新入生歓迎会や実習激励会など諸行事の運営をさせていただいています。

活動の大きな目的として「学生生活の充実に」ということを掲げているのですが、実感として他学年との交流をあまり行っていない現状を感じています。その少ない学生間での交流の機会として、なるべくお互いが積極的に接することができると考えており、同時にそれぞれが現在の学友会の持つ課題であると思っています。

私達も一年前、先輩方に声をかけて頂いたおかげで助けられたよう



に、今年度入ってきた新入生の力に少しでもなれればと思うのですが、具体的に何が助けになるのか、それは恐らく「情報交換」をすること、これに尽きるかと思っています。「今後どのように学習を進めていけば良いのか」「実習とはどんなかんじなのか」。私の一年前を思い返すと、何もわからずどうしたら良いのかただただ不安であつたことを思い出します。しかしそれは現在の自分にしても然り、常に先輩方の背中を見ながら日々学習しています。

年齢・学年は違えど、同じ看護職を目指す学生同士として、お互いが良い刺激となれるような関係であればと思いますし、そうなれるようなきっかけを学友会を通して作っていけたらと思います。

先生一言

「教育所感」

看護第二科 林 恵理佐



ご縁をいただき本校に在職して2年目を迎えました。新参者の私ですが、本校の教育風土に触れて感じ入ったことがありますので、この機会にお伝えしたいと思います。

この1年、教育風土の特徴として感じたのは、何よりも人の温かさで誠実さでした。人には講師をはじめ学校の教員・職員、実習施設の教育担当者も含まれますので、ベースは地域風土なのかもしれません。しかし、様々な教育場面でのやり取り―教育に臨む姿勢や内容―の中に常に温もりや豊かな精神を感じとれるのです。それは、本校の教育の中で大切にされてきた「育む心」のようなものだと思っています。

専門職としての「学」と職業教育としての「実践力」を学ぶ看護基礎教育は、学習者に様々な成長を促します。人間性と一体となった学習活動とも言えるで

しょう。その教育過程での指導や評価は厳しい側面を持ち、学習者に大きな負担をかける場合も少なくないと思います。

その中で、本校にある「育む心」の視座は、教育理念の「実践を通して人間形成を目指す」とある「信」、「誠」、「敬愛」に根ざしており、教育風土の豊かさにつながっているかと理解しています。理念に基づく実践の重みと豊かさの意味を考えながら、教育に携わることの責任を改めて感じているこの頃です。

「共に成長できる関係」

看護第一科 山下 夕子



先日講義の中で、看護者と患者の関係について、教科書の一文として、「看護師と患者は対等であり、共に成長する関係である」と学生に伝えた。

臨床での新人時代、私はある患者と出会う。患者は終末期の状

態であった。私が、仕事で落ち込んでいた時は、「元気が無いわね」と声を掛けてくれた。患者といると自然と笑顔になれる自分がいた。患者もまた、私との関わりを楽しみにしてくれていた。未熟な技術であったが、患者の望むよう自然と一生懸命に関わっていた。患者の最期の日、勤務の都合で立ち会えなかったが、後に娘さんから、「あなたと話している時の母は、病気になる前の母の顔でした。あなたの笑顔が大好き」といつていました。」と声を掛けて頂いた。今振り返ると、看護師と患者という関係ではなく、一人の人間として向き合い、いづしか信頼関係が成立していたのだと思う。いつも、「笑顔を持つて患者に接していく」事の大切さを患者から学んだ。患者との関わりを通して、もっと看護者として成長したいと強く感じた。

現在、看護教員として、学生と関わっている。学生が患者との出会いを通して、看護をもっと学びたい・成長したいと思えるような場面を体験させたい。また学生の成長とともに自分自身も成長出来るようにありたいと思う。食欲に若いパワーに負けず頑張りたい。

平成26年度 学 生 募 集 要 項 看護第一科(昼間3年課程)

出願形態	試験日	出願期間	選考方法	合格発表
指定校推薦入試	平成25年12月7日(土)	平成25年 11月18日(月)	(1)面接 (2)小論文	平成25年 12月11日(水) (合格者のみ)
一般推薦入試		平成25年 11月29日(金) (当日消印有効)	(1)面接 (2)国語総合(古文・漢文除く)	
一般Ⅰ期入試	一次 平成26年2月8日(土)	平成26年 1月14日(火) 平成26年 1月31日(金) (当日消印有効)	(1)国語総合(古文・漢文除く) (2)英語Ⅰ・Ⅱ (3)数学Ⅰ・A ※社会人は(1)のみ。(2)(3)は免除	平成26年 2月10日(月) (一次合格者のみ)
社会Ⅰ期入試	二次 平成26年2月17日(月)	面接(一次合格者のみ)		平成26年 2月18日(火) (合格者のみ)
一般Ⅱ期入試※ 社会Ⅱ期入試※	平成26年3月9日(日)	平成26年 2月28日(金) 平成26年 3月3日(月) (当日消印有効)	(1)国語総合(古文・漢文除く) (2)英語Ⅰ・Ⅱ (3)数学Ⅰ・A ※社会人は(1)のみ。(2)(3)は免除 (4)面接	平成25年 3月10日(月) (合格者のみ)

試験会場 駒沢看護保育福祉専門学校 看護科校舎 〒068-0029 岩見沢市9条西3丁目1-15

※定員に達した場合、実施しないことがあります。詳細については入試係までお問い合わせ下さい。